いきものふれあいの里「陶史の森」だより

土岐市ネイチャーセンター
(☎59-5144)

恥ずかしがり屋の小さな花　―チゴユリ―

木漏れ日が揺れる森の、少しひんやりした遊歩道沿いに、1センチメートルほどの白い花が寄り添うように咲いています。イヌサフラン科の多年草「チゴユリ（稚児百合）」です。その名は、百合に似た小さく愛らしい花を、幼い子ども（稚児）に見立てて名付けられました。

チゴユリは、木陰でやや湿気の多い場所に生え、日本各地で見られます。弓なりにしなった茎の先に白く小さい花を1～3輪咲かせ、ほとんど柄がない葉が互い違いに5～10枚ほど付きます。冬は、地下茎の先端の芽とわずかな根を残して休眠しますが、暖かくなると残った芽から株が成長して、一斉に花を咲かせます。たくさんの花が連なるように咲く様子はまるで、子どもたちが着飾って歩く「稚児行列」を見ているようです。

地面をのぞき込むようにうつむき加減で咲く姿から、チゴユリの花言葉は「恥ずかしがり屋」です。とても小さい花なので、足早に通り過ぎると見落としてしまうかもしれません。少し歩みを緩めて、そっと隠れて咲くかわいい花を見つけてください。

陶史の森からのご案内

バードウオッチング（自由参加）
4月26日(日)、5月24日(日)
午前9時～11時
※集合場所は林泉の池堤防です。
◆陶史の森は自然環境保護地域です
陶史の森では、動植物や石などを絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

トキハクプロジェクト

新博物館準備だより　学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

第24回　新博物館の展示を先取り！ ―「美濃焼と土岐のものがたり」を紹介します―

前号では、美濃焼伝統産業会館で新博物館の歴史展示（常設展示）を先行して公開していることをご紹介しました。今回はその内容をお伝えします。

今回の展示では、新博物館のテーマである「美濃焼」と「土岐市の歴史・文化」が結びつきながら、現在に続いているという歩みを紹介するものです。太古の時代の地域の成り立ちから、現在の「陶磁器生産日本一のまち」に至るまでをたどります。特に、美濃桃山陶を生産した安土桃山時代は重要なポイントです。黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部は、茶の湯文化を支えただけではなく、高度な焼成技術の獲得や新しい窯の導入につながりました。その技術の蓄積が、江戸期以降の大量生産化へと発展し、今日の美濃焼産業へとつながっています。

また、当時の領主や時代背景も併せて紹介し、美濃焼が文化であると同時に地域を支える産業であることを伝えます。展示は、6月7日(日)まで開催しています。ぜひご来場ください。

※展示は、時代ごとに各学芸員が担当しました。

昭和時代～
令和時代
学芸員／鍋内

江戸時代～
昭和時代初期
学芸員／春日

戦国時代～
江戸時代初期
学芸員／中嶌

太古の時代～
室町時代
学芸員／澤井